

令和2年度 研究について

【全国小学校家庭科教育研究会 研究主題】

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

【東京都公立小学校家庭科研究会 研究主題】

よりよい生活を自ら創り出す子供の育成

1 今年度の研究について

令和2年11月27日に全国小学校家庭科教育研究会 全国大会 東京大会を大田区で開催すべく、準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の対策を鑑み、やむなく誌上と映像による発表に変更させていただきました。

新学習指導要領の実施の年度ではありますが、臨時休業が続き、学校教育が再開された際にも、新しい学習形態の工夫をしていかなければならない現状です。そのような中でも工夫して家庭科の学習が進められるよう研究を続けております。新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭で過ごす時間が増え、生活様式を見直すことが求められている中、家族で協力し、工夫して生活する力を育成する家庭科教育こそが重要と考えます。

今後の社会を担う子供たちには、家族・家庭生活や消費生活の変化に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、社会の急激な変化に対応できる力が求められています。一人一人が自立し、家族や地域の人々とともに支え合い、よりよい生活を創造することが必要です。生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎に必要な力として、小学校家庭科では、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指しています。家庭科教育の果たす役割の重要性を自覚し、家庭科における「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、家庭科教育をさらに充実・発展させていく必要性を感じております。

そのために、各題材において児童に習得させたい力を明確にしました。他教科との関連を図ったカリキュラムマネジメントにより、学びの系統性を工夫した指導計画を立て、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫をしています。また、学習過程を工夫し、問題解決的な学習の在り方や、ICTを活用した効果的な学習の実現を目指し研究を進めています。今こそ、家庭での実践力を高めるよい機会として家庭との連携を図ったり、地域の人材活用や地域教材の開発をしたりするなど家庭や地域との連携をなお一層深めています。また、三つの資質・能力における内容のまとめりごとの評価基準及び、題材ごとの評価規準を作成し、児童が成長を実感し、次につなげる評価の工夫について研究を継続してまいります。その成果を研究紀要としてまとめ、全国の皆様に発信し、これからの家庭科教育の推進につなげていただければと思っております。

2 研究のねらい

自分の生活をよりよくするために、既習の知識及び技能を基に問題を見だし、課題を設定し、解決する力を養い、主体的に実践する子供を育成するための指導のあり方を研究する。

3 目指す児童像

- 日常生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている子
- 日常生活の中から問題を見だして課題を設定し解決する子
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと実践する子

見付け、身に付け、未来につなごう

4 研究の視点

家庭科の日々の授業改善を目指し、授業研究・実技研修を中心に研究を進める。

<視点1> 児童の系統的な学びを支える指導計画（カリキュラムマネジメント）

- 各題材における児童に習得させたい概念の明確化
- 各題材における基礎的・基本的な知識及び技能の明確化と題材は配列の工夫
- 他教科等との関連を図った指導計画
- 小中5学年間を見通した指導計画

<視点2> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- 学習過程を工夫した問題解決的な学習指導の充実
- ICTを活用した授業の工夫
- 実践的・体験的な活動の充実
- 個に応じた指導の充実

<視点3> 学びの成果を次の学習へとつなげる評価

- 資質・能力に沿った評価計画の作成
- 成長を実感できる評価の実施
- 児童の思考の過程を把握し、評価する方法の開発

<視点4> 家庭や地域との連携・協働

- 家庭・地域との関りを深めるための学習活動の充実
- 家族の一員として継続して実践する児童を育てる家庭連携の工夫
- 地域の人材や地域教材の開発